

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870104209
法人名	(株)ケアジャパン
事業所名	グループホームハッピー余戸よしこハウス
所在地	松山市余戸東2丁目3-17
自己評価作成日	平成22年7月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年8月6日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

昨年度よりホームとして特に力を入れている点は、接遇について取り組んでいます。ご利用者様に対して尊厳を持って接する事ができるようミーティングで職員同士評価しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

地域包括センターと地域の方達が主催する「認知症サポーター講座」が開催された際には、講師を引き受けられ、職員もお手伝いに行かれた。講座では、グループホームの日常生活や、外出、行事、運営推進会議の様子等をスライドで紹介され、認知症のことやグループホームのことを地域の方達により深く知ってもらう機会になったようだ。  
事業所では、この一年間「接遇」について力を入れて取り組まれた。管理者は「同じ言葉でも、声掛けの仕方、言葉の暴力になってしまうこともある」ことを職員に話し、気になる場面では、その都度、職員と話し合ったり、ミーティング時でも議題にされている。又、職員トイレには「OK言葉・NG言葉」を貼り出して、職員が日々、自分自身を振り返り点検できるようにされている。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 (株)ケアジャパン

(ユニット名) グループホームハッピー余戸

記入者(管理者)

氏名 森 律子

評価完了日

2010年7月24日

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所としての理念とグループホームとしての理念があり実践しています。ホームの理念は利用者様の声をもとに変化のあるものとしてとらえています。	
			(外部評価) 事業所の運営理念をもとに、各ユニットごとに職員が意見を出し合いユニットの理念を作成されている。理念は、居間に掲示されており、職員はミーティング時に日々のケアについて点検や確認をされている。今年目標として「地域の方と馴染みの関係作り、学校との関係作り」をすすめていきたいと管理者は話しておられた。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内行事への参加や近所の小学生との交流も行っている。又散歩の途中等に挨拶を交わしたり、公園で遊んでいる親子と話をしたり日常的に交流している。	
			(外部評価) 日々の散歩や買い物等、地域の方達と挨拶されたり、又、地域行事に参加して、いろいろな方に利用者の顔を覚えていただきたいと取り組んでおられる。近所の農家のお宅の庭でお花見をさせてもらった際には、テーブルや椅子等を準備してもらったようだ。又、普段もお米を購入したり、野菜をいただいたりするようだ。近所の方が、利用者が一人で出られた時に、教えてくださったり「洗濯物が濡れるよ」と雨が降り始めたことを教えてくださることもある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 目標として一年間で小中学校又は地域の集まりの際に認知症について話をしたり、寸劇などの方法で理解をしていただけるよう計画している。	
			(外部評価)	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2か月に1回民生委員、老人会町内会長、他市役所、地域包 括、ご家族に参加していただき現在の状況を報告し参加者の 方々からご意見をいただきサービスの向上に活かしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議の時間を、午前中、午後、夕方～等と、時間帯 を変えているような方に出席していただけるよう工夫されて いる。毎回、ご家族の参加があり、顔ぶれも変わるようだ。 お花見や家族会と合わせて会議を開催されることもある。会 議では、事業所の活動や利用者の状況、職員の異動等につ いて報告して意見をうかがったり、又、民生委員の方の提案 で、消防士の方を招いての救命救急講習で心肺蘇生法や、の どに食べ物が詰まったときの対処方法を習った時には、民 生委員の方等、約30名の方の参加があった。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くよう に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>市の主催する連絡会、講習会に参加しています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>地域包括センターと地域の方達が主催する「認知症サポ ーター講座」が開催された際には、講師を引き受けられ、職員 もお手伝いに行かれた。講座では、グループホームの日常生 活や、外出、行事、運営推進会議の様子等をスライドで紹介 され、認知症のことやグループホームのことを地域の方達に より深く知ってもらう機会になったようだ。運営推進会議 時、参加者から「後期高齢者医療」や「要介護認定」につ いて等、質問があった場合は、市の担当者の方が詳しく説明し てくださっている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>4月～7月11日迄じょくそうの為の椅子から車いすになった際 多動で危険な為拘束帯を使用する。その際にはご家族にじょ くそうが完治する迄という事で1ヶ月ごと説明をし同意書を いただいています。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>気ままに出かける利用者に職員は、利用者の行動を止めるこ となく、後ろからそっと見守り、タイミングよく声を掛ける 等してご本人の気持ちを尊重した対応に努めておられる。管 理者は、日々のケアの中で、職員の利用者への対応等で気 になる時には、職員個々に問いかけながら拘束をしないケアの 実践に努めておられる。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 接遇について取り組む事で言葉の虐待の防止に努めている。又ミーティング等で職員に話し合いを持っています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在1名の入居者様が成年後見を活用しています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の時、契約に関する説明を行う際にご利用者様やご家族などの不安や疑問点を聞き詳しく説明を行い、理解納得を図っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族が訪問された時、電話や手紙などで意見を聞かせていただいています。  (外部評価) 年2回発行の「よしこハウスだより」をご家族に送っておられ、ご家族にも利用者の日々の様子が分かりやすいように、写真や職員からのコメントを織り交ぜ作成されている。毎月ご家族に送付するお手紙には、ご本人の日々の生活の様子や日々励んでおられること、又、よくお話しされること等を書くようにされている。家族会は、年2回開催されており、ご家族も一緒に夕食をとりながら、事業所のケアサービス等について意見や要望を聞くようにされている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で職員の意見、提案が出た際はそれを代表者管理に伝え改善、検討されている。又「何でもいま書」の用紙等も活用できるようにしている。	
			(外部評価) ミーティングの際、職員は「一人一言は発言する」ように決めておられる。又、「気になること」や提案等は、日々の中で、その都度、話し合うようにされている。「エアコンの風で利用者が冷えるといけない」との職員の気付きで居間のテーブルの位置を替えられたり、薬の置き場所等、職員が間違わず、分かりやすいように変更された。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員一人一人が年間目標を決め、取り組んでいます。また、スキルアップについては資格取得の祝い金を創設している。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に無理なく参加できるよう勤務時間に組み入れるようにしている。目標に掲げ必ず年2回は少なくとも研修に参加するよう取り組んでいる。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居され新しい環境に慣れるよう当初はコミュニケーションを多くとる事で不安や要望を聞き、安心して生活できるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時ご家族等が困っていることや、不安な事、要望等聞かせて頂くとともに入居時に関わらず来所した時及び電話等で聞かせて頂くようにしている。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>相談の際、本人の家族が必要としている事を見極め支援を行うように努めている。フォーマルなサービスの活用も実践している。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の暮らしの中で調理、洗濯、清掃等家事活動を個々の力に応じ共にできるよう配慮している。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の現状を手紙、電話等で情報を伝える機会を多くすることで本人と家族の絆を大切に、共に支えていく事が出来るように努めている。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>外泊や外出で馴染みの場所を訪れたり、友人知人がホームに会いに来て頂いたりすることでこれまでの関係が途切れる事のないよう支援に努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族と一緒に墓参りに行かれる方や、以前住まわれていたところが気になるような方には、ご家族がお連れすることもある。ご本人から何らかの希望があった場合は、ご家族に伝え、支援につながるよう努めておられる。</p>	<p>事業所では、現在「生まれ育ったところに行ってみよう」と希望されている利用者がおられるようで、今後、ご家族と相談、協力しながら、事業所からも支援をすすめていきたいと管理者は話しておられた。利用者個々の懐かしい人や場所を探り、これからも、ご本人らしく暮らしていけるような支援に努めていかれてほしい。</p>

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 耳の遠いご利用者様が話に参加できるよう傍で伝えたり、利用者同士が関わりを持つよう時にはトランプ、風船バレーをする機会を作るなどして支援している。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価)	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人一人の思いや暮らし方の希望意向についてよく聞くようにしている。またなかなか伝えられない方については表情や行動によって意向をくみ取るように努めている。困難な場合は職員間で話し合いを行っています。	
			(外部評価) 職員は、就寝前に居室でゆっくりとお話をする時間を作り、それぞれの思いの把握に努めておられる。「夢を見た」と朝方、職員に思いをお話される方もあるようだ。日々職員は「今、したいこと」「困ってること」等を聞きながらかわるようになっている。又、ご自分で決めたり選んだりできるような声かけにも気を付けるようになっている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の際にご家族様やご本人から聞いたり日々の生活の中で会話から理解し把握するようにしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 個人記録等において一人一人の暮らしの現状については把握している。又変化については申し送りノートで職員間で情報を共有するようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>月2回のミーティング等で課題について検討し、本人や家族の要望を聞き、取り入れながら話し合いをする事で現状に即した介護計画を作成するようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族にはご本人の様子を詳しく伝え、ご意見や要望を聞くようにされている。日々の「生活記録」は、普段との変化がある内容について、赤字で記す等、職員同士で利用者個々の状態変化を共有できるよう工夫されている。日々の「生活記録」等を踏まえて担当職員が、「気になること」等も含め、毎月アセスメントされており、ミーティング時等で職員で話し合って管理者が介護計画を作成されている。管理者は「本人にとって、安心して穏やかで、よりよい生活が出来るように、ご本人に不自由はないか」等に気を付けて介護計画を作成されているようだ。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居様が話した事、発した言葉等を個人記録に記録する事で思いや考えている事を把握し、職員間で共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居している方の状況や家族の意向により手話通訳、マッサージ等利用している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>障害者の方の支援として盲ろう通訳と聴覚障害の手話通訳から月～土来所していただき安心して穏やかに暮らす事が出来るように支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月2回の往診と症状により医師に連絡し、往診に来て頂 いています。また家族の要望により今までの病院に受 診していただいています。	
			(外部評価) 協力医の往診は月に2回であるが、調査訪問時、体調 が優れない利用者のために往診に来てくださって いた。以前からのかかりつけ医に受診には、ご家族が 付き添われているが、ご本人について詳しい説明が必 要な場合には、管理者が同行することもある。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 身体の変化や症状について1Fのデイサービスの看護 師に相談したり処置をしてもらう等日々連携を取っ ています。	
			(外部評価)	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入退院がスムーズに行えるよう病院関係者と情報交換 や相談に努めています。	
			(外部評価)	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時と重度化した場合などは早期にホームとして出 来る事、出来ない事を家族に説明し、話し合いを持っ つようにしています。	
			(外部評価) 医療機関からもらった、看取りの段階等が詳しく載っ ている冊子等を用いて、職員で勉強をされている。実 際、看とり支援の経験からも学ぶことも多いようであ る。看とり支援は、職員のチームワークが大切なので 「一人で悩まず、相談・連絡をするように」と管理者 は職員に話しておられる。ご家族が高齢な方や遠方 にお住まいの方もあり、今後さらに、ご家族個々の事情 も考慮しながら、主治医と相談して取り組んでいき たいと話しておられた。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価)  利用者の急変や事故発生時の対応についてはミーティング等で周知徹底している。昨年11月にAEDの講習を受ける。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価)  年2回色々な状況を想定し消防士の指導のもと避難訓練を実施している。その際の地域の防災士さんに参加して頂いて訓練を行っている。  (外部評価)  夜間想定避難訓練時、地域の防災士の方が車椅子の利用者役をして下さり、実際に一連の流れを職員一人で行なってもらった。体験した職員は「何を優先して行えばいいか具体的に分かり、不安ではあるが、自信につながった」と話しておられた。消防署の方からは「火を一人で消そうと思わず、まず避難をすること」「繰り返し訓練を行うこと」が大切とアドバイスいただいた。	さらに、今後も地域と連携できる体制作りをすすめていかれてほしい。災害時等に事業所の機能を活かして地域の役に立つようなことはないだろうか。今後、運営推進会議時等の機会に地域の方達にお聞きしたり、事業所のできることを職員で話し合う等、より連携できるような取り組みを工夫されてみてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価)  接遇についての見直し取組の中で一人一人に十分配慮した声かけが出来ているかミーティング等で話し合い評価している。  (外部評価)  事業所では、この一年間「接遇」について力を入れて取り組まれた。管理者は「同じ言葉でも、声掛けの仕方、言葉の暴力になってしまうこともある」ことを職員に話し、気になる場面では、その都度、職員と話し合ったり、ミーティング時でも議題にされている。又、職員トイレには「OK言葉・NG言葉」を貼り出して、職員が日々、自分自身を振り返り点検できるようにされている。調査訪問時、職員は利用者笑顔で丁寧に声をかけておられ、トイレへの声かけは、利用者のそばでそっとされていた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価)  利用者に声かけするにあたっておしつけや命令ではなく常に自己決定できるように働きかけるよう配慮している。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	利用者の個々のペースを大切に思いうように一日を過ごす事ができるように支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価)	衣服交換の際自分の好きな色や柄が選べるよう支援している。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	一人一人の好みを聞き用意したり、配膳や片付けなど手伝って頂き、できる事を一緒にしていただくよう声かけしている。	
			(外部評価)		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価)	食事量、水分量が確保できているかチェック表にて把握し、個々の状態等に応じた支援をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価)	就寝時は必ず義歯を外しコップにつけるよう、週1回洗浄剤につけるようにしている。又歯科衛生士により口腔内の状態をチェックしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表にて排泄のパターンを把握し声かけ誘導している。	
			(外部評価) 車椅子を利用されている方で頻回にトイレを使用される方のために、使用していない時には「車椅子用トイレ」の扉を開けておくようにされている。事業所では、今後、カーテン等を付けることを検討されていた。職員は「オムツを安易に使用することは、利用者にとって不快感もあるし、尿意もなくなってしまう可能性がある」と考え、日中はパンツを使用して、トイレで排泄できるよう声をかけたり誘導して支援されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 水分をこまめに取っていただくよう配慮すると共に、食事のバランス等にも気をつけるように取り組んでいる。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日朝、個々に希望を聞き入浴して頂くようにしている。	
			(外部評価) 民家を改修しているユニット「よしこハウス」は、以前、介護度重度の方は隣接デイサービスの機械浴を使用されていたが、移動時、一度建物の外に出るために、「気温差が利用者の体に負担になってしまう」こともあり、現在は、ユニット内の浴室を使用されており、2名の職員が介助して入浴できるよう支援されている。「よしこハウス」は、デイサービスの機械浴を使用されている方もある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 毎日の生活の中で日中の活動量を多くするよう配慮し、夜間は気持ちよく眠れるように支援している。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個々の薬は管理し職員は一人一人に手渡しし、服薬を確認をしている。又症状に変化があった際は医師に連絡し指示を頂いている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 日常生活で居室の掃除、洗濯ものを干す、たたむ、食後の片づけ、食材の下ごしらえ等の家事活動、日中ゲームを楽しんでいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気の良い日は近くの公園まで散歩したり、買い物に行く際は一緒に行っていただいたりしている。又月1回は海、いちご狩り、動物園その他に行くようにしている。	
			(外部評価) 玄関先には帽子が用意されており、日々散歩される時に利用者が帽子をかぶって出かけられるようにされている。散歩時には、近所の方と挨拶を交わしたり、公園では小さい子ども達と接することもあり、職員は「ホーム内での利用者とはまた違った一面を見ることもある」と話しておられた。日々の食事の買出しにも利用者と一緒にいられている。月1回は、ぶどう狩りや菊花展等、季節を楽しみに外出を計画されている。調査訪問時、エレベーターで1階に降りて、階段を使って上る運動をされている利用者の様子がみられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 一人一人の力に応じてお金を所持したり使えるようにしている。お金を所持する際のどこに置いたか分からなくなるので必要な時必要な額を渡している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 遠くの家族からの手紙に返事を書いたり電話をしたり個々の力に応じ支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングにはその時々に応じたひな人形、五月人形、七夕、ツリー等利用者と共に飾りながら季節が感じられるよう工夫している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関先の屋根のあるところにベンチが置かれてあり、利用者がちょっと外に出て日向ぼっこされたり、気分転換できるようになっている。利用者が世話しているプランターには、トマトやピーマンが実を付けていた。居間には、七夕飾りやひまわりの花を花瓶に飾られていた。民家改修のユニットは、以前住んでおられた「よしこさん」が使っていた昔懐かしいミンシがあり、職員が話題にしたり、ご自分がお若い頃の思い出を語る利用者もあるようだ。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>リビングに出て利用者同士で反したり、居室に入り一人一人の時間を過ごしたり思い思いに過ごしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>入居の際に今まで使用していたものを持ってきてもらい、居室に置いてもらっている。又入居してから家族と相談しながら本人が好みのものを持ってきてもらっている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居室の入り口には、職員が作った表札と、個々に違う飾りものが付けられており、目印になっていた。居室の中には、ご本人が以前使っていたタンスや椅子が置かれていたり、仏壇を持ち込まれている方もある。ご家族と一緒に撮った写真を飾っておられる方もあった。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>個々の力に応じ出来ることを安全に行えるよう、机、椅子の配置、環境整備に心がけている。</p>	